

平成 30 年 5 月 15 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02256

研究課題名(和文) 画像資料の総合利用による歌舞伎上演実態の研究

研究課題名(英文) Study of actual situations of performances in KABUKI dramas based on comprehensive utilization of pictures

研究代表者

河合 眞澄 (KAWAI, MASUMI)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号：00169674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：歌舞伎の基礎資料である役者評判記(上演演目に関する記事を中心とする役者評の集成)・絵入狂言本(挿絵入りの筋書き本)の挿絵を検討し、両者には関連性が見られることを考察した。両者の構図や細部には、明らかに相似した部分が見受けられる。その相似は、同一の本屋(当時の出版社)から刊行された役者評判記・絵入狂言本相互にとどまらず、異なる本屋から刊行されたものにも見受けられることを究明した。

また、本文を併せ読むことによって、挿絵には本文に書かれていない情報も描かれている場合があり、役者評判記・絵入狂言本の中には、挿絵と本文が補完関係にあるものが存在することも考察した。

研究成果の概要(英文)：I did research on illustrations in books about popularity of KABUKI actors and books about plot of plays, which is important for study of KABUKI. These illustrations have a relation each other. Their illustrations bear some parallels in their compositions and details. The similarities can look not only in the books published in the same company but also in the different companies.

When you look the illustrations, you will find the matters which are not clear in the texts of these books. The illustrations make up for the texts.

研究分野：日本近世文学

キーワード：歌舞伎 役者評判記 挿絵 絵入狂言本

1. 研究開始当初の背景

(1) 歌舞伎をはじめとする近世演劇に対する国際的な関心が高まっている現状にあって、近世演劇関係の資料はかなり整備されてきている。

しかし、まだ資料紹介の段階にとどまっています。既刊資料の利用もいまだ不十分であり、実証的な研究がほとんどなされていない。

そこで、演劇文化の形成という広範な視点による、翻刻された資料等を活用した研究が要求されていた。

(2) 近年、国文学研究では画像資料の研究が重要視されるようになってきている。近世演劇研究においても、画像資料に配慮することは不可欠になってきている。

しかし、江戸時代から明治の初頭まで継続的に多数の出版があった役者評判記や絵入狂言本の挿絵の研究は、いまだ進捗していない。絵づくし等、他の画像資料についても同様の状況にある。

そこで、当時の出版文化を考える上からも、役者評判記や絵入狂言本の挿絵研究に着手することは、喫緊の課題となっていた。

研究代表者は、2012年度から2014年度まで、科学研究費助成事業「画像資料の総合利用による歌舞伎演出の研究」において研究に取り組み、一定の成果が得られたが、引き続き画像資料研究を行うことが必要であった。

(3) 近年の絵画研究は、科学的な手法による解明が進み、顔料の分析等、新たな方面からのアプローチによる進展が見られる。

浮世絵等の近世の絵画にもこのような研究が見られ、従来の絵画を直視するのみの従来の研究手法では新たな発見ができにくい状況にもなっている。

また、時代を超えた研究、国内外の研究者のグループ研究等、幅広い形式の研究も急速に増加してきている。

そのため、近世演劇の画像資料の研究においても、絵画全般の研究状況を把握しておく必要があり、国際シンポジウム等で知見を広める必要がある。

2. 研究の目的

(1) 役者評判記や絵入狂言本の挿絵を多数収集し、個別の歌舞伎演目の上演実態を推察する資料とする。そのために、画像資料である役者評判記や絵入狂言本の挿絵の信頼度を考察して行く。

それとともに、役者評判記や絵入狂言本の挿絵を、絵づくし等、他の歌舞伎資料に収められている画像資料と比較検討し、役者評判記や絵入狂言本の挿絵の位置付けを定める。

(2) 役者評判記の評文に記述されている歌舞伎演目の内容、絵入狂言本の本文に書かれている演目のあらすじ等を詳しく読み込み、挿絵と上演内容の関連を詳細に検討する。それにより、役者評判記や絵入狂言本の挿絵がどのように上演実態を反映しているかを見極め、江戸時代の歌舞伎演出等、当時の上演実態を解明する。

(3) 近年の絵画研究全般の動向を把握し、江戸自体の絵画や文学に関する知識ばかりではなく、科学的なアプローチの方法、海外での研究も含めた幅広い知識を獲得する。

3. 研究の方法

(1) 役者評判記の挿絵はサイズが小さく細部が見づらいため、拡大資料を作成する。関連する時代の絵入狂言本の影印資料を入手する。

これらの資料を一点ずつ詳細に検討し、役者についての評文や絵入狂言本本文などの文字資料と照らし合わせて、挿絵に描かれている内容が実際に上演されたものかどうかを検討し、成立の経緯や相互の関係を見極める。

(2) 上記(1)の成果を得るため、研究協力者4名(森谷裕美子・川端咲子・原田麻衣・淵田恵子)との研究会を定期的実施し、役者評判記および絵入狂言本の挿絵について検討する。

とくに、同一年度出版された役者評判記と絵入狂言本の関係に着目する。両者の比較によって共通する部分を捕捉し、それが実際の上演内容を反映しているものと考えて、どのように演出されていたかを推測する。

(3) 現在の歌舞伎興行における演出を見出し、役者評判記や絵入狂言本の挿絵に見られる演出を考える手がかりとする。

また、江戸時代以来継承されてきた演出を現代に生かすための手法を確認する。同時に、上演関係資料を収集する。

(4) 近年の絵画研究全般の動向を把握するため、絵入本関連の国際シンポジウム等に出席して、研究発表を聴講し、幅広い知識を獲得する。

4. 研究成果

(1) 同一年度出版された役者評判記と絵入狂言本を選び、研究会において一点ずつ子細に検討し、両者の挿絵の關係に注目した。その結果、両者の挿絵には構図等が酷似するもの、反転させた絵組になっているものがあ

り、一方が他方を転化したか、同一の素材にもとづいて描いたものかと推察した。これらは、従来の研究ではまったく言及のなかった事柄である。

さらに、役者評判記と絵入狂言本の挿絵相互の影響関係は、同一の本屋（出版業者）から出されたもの同士にとどまらず、複数の本屋から刊行された役者評判記と絵入狂言本の間においても見られることを、新たに発見した。

（2）研究会において、上記（1）の同一年度に出版された役者評判記と絵入狂言本を講読し、絵入狂言本の挿絵が役者評判記の挿絵の粉本である場合が多いこと、絵入狂言本の版元（出版社）に拘らず役者評判記で挿絵を利用していること等を確認した。

さらに、後発の役者評判記の挿絵に、絵入狂言本の挿絵や先行する役者評判記の挿絵と異なる部分が見られる場合は、あえて施した改変であって、上演実態を反映したものと考えられると推測した。これは、従来の研究ではまったく推測されていなかった。

挿絵が上演実態を反映しているという点については、研究代表者が学会発表の一部として取り上げ、2本の論文として平成27年度に活字化された。

（3）絵入本学会主催の絵入本ワークショップに研究代表者・研究協力者が平成27年度から平成29年度まで連続して参加し、画像資料についての見識を深めた。画像資料は出版物のみならず、幟などにも見られるものであること、科学的な解明によって描かれた当時の彩色を復元できること等の知見を得た。

（4）歌舞伎座・新橋演舞場・明治座・松竹座等の歌舞伎興行を実見し、とくに古典の演目に注目して現在の歌舞伎の上演実態を調査した。この調査により、役者評判記の挿絵の示す演出の手がかりを多く得たほか、江戸時代から現代に至るまで継承されている演出・趣向を確認した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

川端咲子、「近世芸能における道成寺の演出」、『神女大國文』、査読無、第29号、2018、39-49p

森谷裕美子、「〔資料紹介〕八行本『今川了俊』」、『近松研究所紀要』、査読無、第27号、2018、55-80p

河合眞澄、「歌舞伎の中の巡礼」、『四国遍路と世界の巡礼』、査読無、第2号、

2017、1-7p

森谷裕美子、「翻刻 絵入狂言本『けいせい雄床山』」、『近松研究所紀要』、査読無、第28号、2018、27-83p

川端咲子、「享保三年の競演 絵入狂言本『けいせい山椒大夫』の検討」、『上方芸文研究』、査読無、第13号、2016、80-93p

河合眞澄、「役者評判記の挿絵 上演実態の推測」、『国語と国文学』、査読有、第92巻9号、2015、3-19p

河合眞澄、「役者評判記の戦略 八文字屋と江島屋」、『演劇研究会会報』、査読無、第42号、2015、13-19p

〔学会発表〕（計4件）

河合眞澄、「『女殺油地獄』の女性たち」、『大阪府立大学「文学とジェンダー」ミニシンポジウム、2017

河合眞澄、「歌舞伎の中の巡礼」、『愛媛大学法文学部附属 四国遍路・世界の巡礼研究センター 公開講演会、2016

原田麻衣、「半二謀反人劇の展開 『時代織室町錦繡』を中心に」、『演劇研究会10月例会、2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 眞澄 (KAWAI MASUMI)

大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授

研究者番号： 00169674

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

森谷 裕美子 (MORIYA YUMIKO)

京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師

川端 咲子 (KAWABATA SAKIKO)

神戸女子大学・文学部・非常勤講師

原田麻衣 (HARADA MAI)

日本芸術文化振興会（国立劇場）・職員

淵田恵子 (FUCHIDA KEIKO)
萩市立美術館・学芸員

